



## **1. 土屋理事(国際担当)・斎木理事(研究担当)が、参画機関UAEUおよびMBZUAIを訪問**

土屋・斎木の両理事がJ-PEAKS参画機関のUnited Arab Emirates University (UAEU)を訪問し、今後の教育・研究の連携強化について協議するとともに、Mohamed bin Zayed University of Artificial Intelligence (MBZUAI) においてAI研究をめぐる国際連携の可能性を探りました。(2月)

## **2. 英国科学誌『Nature』編集長のマグダレーナ・スキッパー博士がCRIK信濃町を訪問**

『Nature』編集長のスキッパー博士がCRIK信濃町を視察し、慶應のスタートアップ支援やイノベーション創出について話し合いました。また、伊藤塾長、斎木理事と慶應の研究力強化や国際的展開をめぐる懇談するとともに、Bio2QのPI研究者たちと意見交換を行いました。(2月)

## **3. 伊藤塾長、土屋理事が「U7+ Presidential Delegates Meeting」に出席**

U7+ Presidential Delegates Meetingが開催され、伊藤塾長、土屋理事が出席しました。U7+ Allianceは世界50大学が加盟する国際的な大学コンソーシアムで、慶應義塾が議長校を務めており、「急速に変容する世界における大学の社会的役割」などをテーマに活発な議論が展開されました。(1月)

## **4. X Dignityセンター「AI時代の報道機関のあり方に関する提言」を公表、ジャーナル『Focal』第2号を刊行！**

アテンション・エコノミーの拡大に伴い、民主主義のあり方や人間の尊厳にも根源的に影響する情報空間の変質が進んでいます。健全で闊達な情報空間の実現を目指し、デジタル化やAIの利活用を前提とした情報流通の仕組み・構造の再検討を通じて、報道機関の意義を問い直しました。(1月)  
また、領域を横断した研究の最前線に「焦点」を当て、一人ひとりが「知の探究者」となるジャーナル『Focal』の第2号を刊行しました。(2月)

## **5. KGRI「ウクライナ和平に関する国際会議」を開催**

世界10カ国から集まった研究者、法律専門家、元外交官らが、慶應義塾大学三田キャンパスに集い、ウクライナの平和に関する集中的な議論を行いました。KGRIは多様な国際学術イベントの誘致を積極的に行っています。(1月)